

## ◎ 山梨県スポーツ推進計画の進捗状況

山梨県スポーツ推進計画第5章2の計画の進行管理に基づき、令和元年度における計画の進捗状況（数値目標達成状況）について、次のとおり公表します。

## 基本方針Ⅰ（子供のスポーツ機会の充実）

政策項目	指 標	2018年度 (平成30) の値	2019年度 (令和元) の現況値	2023年度 (令和5) の目標値
1	①「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」における授業以外でほとんど毎日（週420分以上）運動やスポーツを実施している児童の割合（小5）	男子 56.9%	男子 55.6%	男子 59%
		女子 34.0%	女子 31.6%	女子 37%
	②「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」における児童の体力合計点の全国体力合計点との比較（県平均/全国平均）×100（小5）	男子 98.9%	男子 98.7%	男子 100%
		女子 99.1%	女子 98.7%	女子 100%
2	平日1日と土日どちらか1日を休養日としている部活動顧問の割合（中学校・高校）	中学校 平日 80.4% 土日 93.2%	中学校 平日 86.0% 土日 96.5%	中学校 平日 100% 土日 100%
		高校 平日 79.0% 土日 80.9%	高校 平日 79.4% 土日 84.2%	高校 平日 90%超 土日 90%超

○ 学校、地域、家庭において、子供が運動を楽しむ機会を充実させ、運動の日常化を図りながら体力の向上を目指している。

## [1-①]

・ ほとんど毎日（週420分以上）運動やスポーツを実施している児童（小学5年生）の割合は前年度より低下したが、全国的に同様の傾向がみられ、背景としてテレビ、スマートフォンの視聴時間の増加などが考えられる。

## [1-②]

・ 体力合計点の比較（小学5年生）は前年度より低下し全国との差が若干広がったが、全国的に体力合計点の低下傾向がみられ、背景として上記①の割合が低下したことが考えられる。

## [2]

・ 県・市町村教育委員会及び各学校が策定したガイドラインに基づき、休養日の設定に取り組んだ結果、平日・土日とも割合が上昇し改善がみられた。

## 基本方針Ⅱ（健康教育の充実）

政策項目	指 標	2018年度 (平成30) の値	2019年度 (令和元) の現況値	2023年度 (令和5) の目標値
1	全国体力・運動能力、運動習慣等調査における「朝食を食べない日が多い」「食べない」児童生徒の割合（小5、中2）	小5男子 2.2% 小5女子 1.4% 中2男子 4.8% 中2女子 3.9%	小5男子 2.0% 小5女子 1.7% 中2男子 4.2% 中2女子 4.0%	小5男子 2.0% 小5女子 1.3% 中2男子 4.6% 中2女子 3.5%

○ 子供たちの望ましい生活習慣の定着を図るため、学校関係者と連携・協働しながら、学校保健、学校給食、食育等の充実に取り組んでいる。

## [1]

・ 「食育推進一校一実践」の取り組みなどにより、男子は小5・中2とも成果がみられた。一方、女子は改善されていないが、全国の数値（小5 2.7%、中2 4.6%）よりは上回っている。

### 基本方針Ⅲ（若年期から高齢期までライフステージに応じた生涯スポーツの推進）

政策項目	指 標	2018年度 (平成30) の値	2019年度 (令和元) の現況値	2023年度 (令和5) の目標値
1	過去1年間に一度も運動・スポーツを実施しなかった人の割合	20.3%	19.9%	10%
2	総合型地域スポーツクラブに関する実態調査におけるPDCAサイクル(※)により運営の改善等を図っている総合型地域スポーツクラブの割合	30.4%	33.3%	70%

※PDCAサイクルとは、法人などの組織の事業活動でPlan(計画)、Do(実行)、Check(評価)、Action(改善)を繰り返しながら業務を継続的に改善していく手法。

- 誰もが生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現し、県民一人ひとりが年齢や興味、関心、適性などに応じた生涯スポーツに取り組めるよう支援している。

[1]

- ・ 市町村や各種団体を構成員とする地域スポーツ推進協議会による身近な地域スポーツの振興や総合型地域スポーツクラブの運営支援など、スポーツに参加できる機会の創出に取り組んだ結果、若干であるが改善がみられた。

[2]

- ・ 山梨県広域スポーツセンターによる総合型地域スポーツクラブの育成や活動に関する支援、市町村訪問などを通じて、クラブの質的充実に取り組んだ結果、2.9%の改善がみられた。

### 基本方針Ⅳ（競技力の向上）

政策項目	指 標	2018年度 (平成30) の値	2019年度 (令和元) の現況値	2023年度 (令和5) の目標値
1	①ターゲットエイジを対象とした発掘・育成事業を実施している競技団体の割合	36.6%	87.8%	100%
	②国民体育大会における天皇杯得点と順位	803点	809点	900点
		36位	37位	20位台
2	競技力向上に係る優秀な若手指導者を育成・強化している競技団体の割合	24.4%	34.1%	100%

- スポーツ関係団体と連携し、次世代アスリートの発掘・育成を進めるとともに、指導者の養成を進め、ジュニアからトップレベルに至る一貫指導体制の構築を図っている。

[1-①]

- ・ 競技団体合同による複数の競技の体験会の実施などを支援したことにより、発掘・育成事業を実施した団体の割合が大幅に増加した。

[1-②]

- ・ 各競技団体や県高等学校体育連盟等と連携を深め、選手強化の取り組みを進めた結果、得点は、昨年度を上回った。

[2]

- ・ 各競技団体の適切な指導体制の構築に向けて、公認指導者講習会への参加を促進・支援したことにより、若手指導者を育成・強化している競技団体の割合が9.7%増加した。